

2022年度 自己評価結果

関東学院六浦こども園

1. 関東学院六浦こども園の教育と保育

◎ 教育・保育理念

神さまに創られた大切な一人として愛されていることを知り、人を信じる力を育み、他者と共に生きていく力を養います。

◎ 教育・保育目標

・主体性 ・思いやりの心 ・創造性

◎ 教育・保育方針

- ・キリスト教の精神、即ち学校の校訓である「人になれ奉仕せよ」の精神をもって、毎日の保育をしていきます。
- ・食事、睡眠、排泄、清潔などの基本的な生活を大切に、一人ひとりに丁寧にかかわり、ありのままの姿を受けとめる中で基本的信頼感を育みます。
- ・喜怒哀楽をしっかりと経験する中で自分の思いを表し、他者の思いに気づきながら自分づくりを積み重ねていけるよう子どもの心に寄り添った援助をしていきます。
- ・子どもたちの好奇心や興味をかきたて、生活や遊びが豊かに広がり学びが深まるような環境構成や援助のあり方に配慮し、異年齢のかかわりを積極的に行います。

2. 本年度の重点事業目標及び計画

(ア) 園内外で研究、研修を行い、保育の質の向上につなげる

外部講師2名による定期的な園内研修会をはじめ、内外で研修、研究に充実して取り組みます。保育者が自身の保育実践を語り他者の保育実践に耳を傾ける、対話的な園内研修会を行い、発達理論に基づいて実践を検討することにより、保育者の保育の質の向上を図り園の保育の質の向上を目指します。園内のプロジェクトの研究活動をキャリアパスの仕組みづくりにつなげていきます。子どもたちの持つ非認知能力を高め、豊かな学びにつなげるために自然に触れる機会を充実し、「木育」活動や自然教育を行う保育者の育成に取り組みます。

(イ) アートを取り込んだ教育の推進

今の時代に必要な豊かな感性や主体性、自ら環境に働きかけて創り出す力を育むために、アート活動を生活の中に取り入れ豊かな表現につながる教育を推進していきます。素材や画材を豊かに整え、様々なモノと対話する中で、その人らしい表現が引き出されていくプロセスを大切に教育を展開していきます。また、子どもたちの発見や探求を支え行為の意味を読み取ることのできる保育者の育成を目指し、学びの機会を充実します。

生活の中のアートを保護者や外部の方々にドキュメンテーションやギャラリー展示により伝えることで、子ども理解につなげ、本園の特長としていきます。乳児保育においても日常的にアート活動を取り入れ、発達に照らし合わせた子どもたちの感じる心の事例を月間保育誌に連載します。また、優れた教育実践現場の視察を実施し、本園の更なるアート教育の推進と充実につなげます。

(ウ) 子どもたちの意欲を高める園庭と室内環境の構築

家庭や地域で経験できないことが体験でき、自分とは違う人と出会う中で育ち合うことのできる環境づくりを推進します。子どもたちが本来持つ『意欲(やりたい気持ち)』が引き出され挑戦し、仲間と夢中になって遊ぶ中でしなやかな心身が育つことを願い、魅力ある室内環境や園庭づくりに取り組みます。

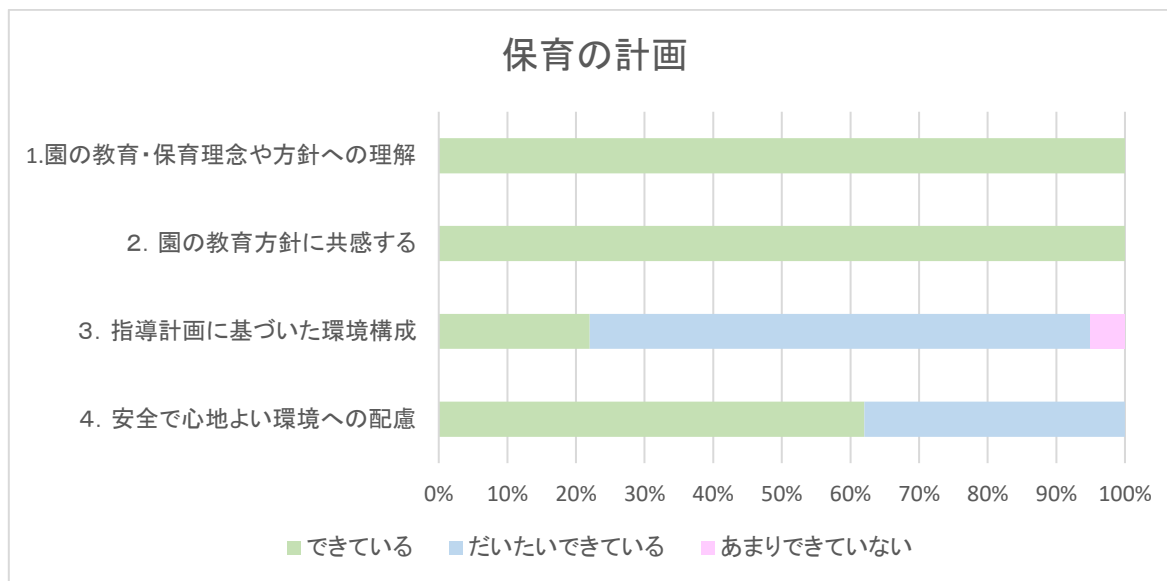
園庭の冒険遊び場化や生き生きと遊べる室内の空間づくりをお父さんの会と保育者がDIYを駆使し協働で製作し取り組むことで、子どもの持つ力と育ちを一緒に考え合い学び合う場とします。手作り遊具の製作過程や子どもたちの活動の様子をその目的や意味も含めドキュメンテーションで発信します。また講演会などを行うことで活動の意味を伝え、保護者の理解と協力につなげていきます。

お父さんの会と保育者が園庭研究会に参加し学びを深め、更なる進化につなげます。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

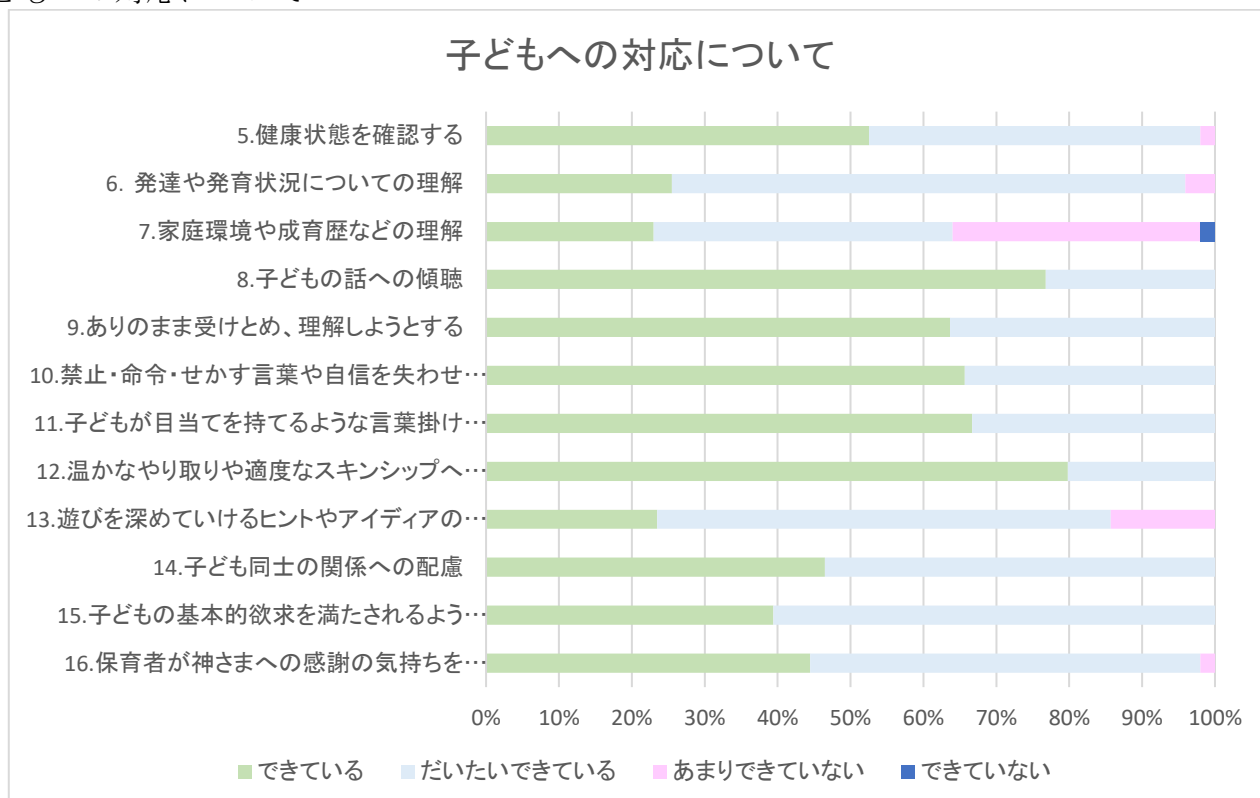
下記の項目について、教職員にアンケート調査を実施し、その結果を表にまとめ自己評価としました。
また、その結果をもとに、園運営や教育活動の総括と来年度の改善に向けての課題等をまとめました。

I 保育の計画について



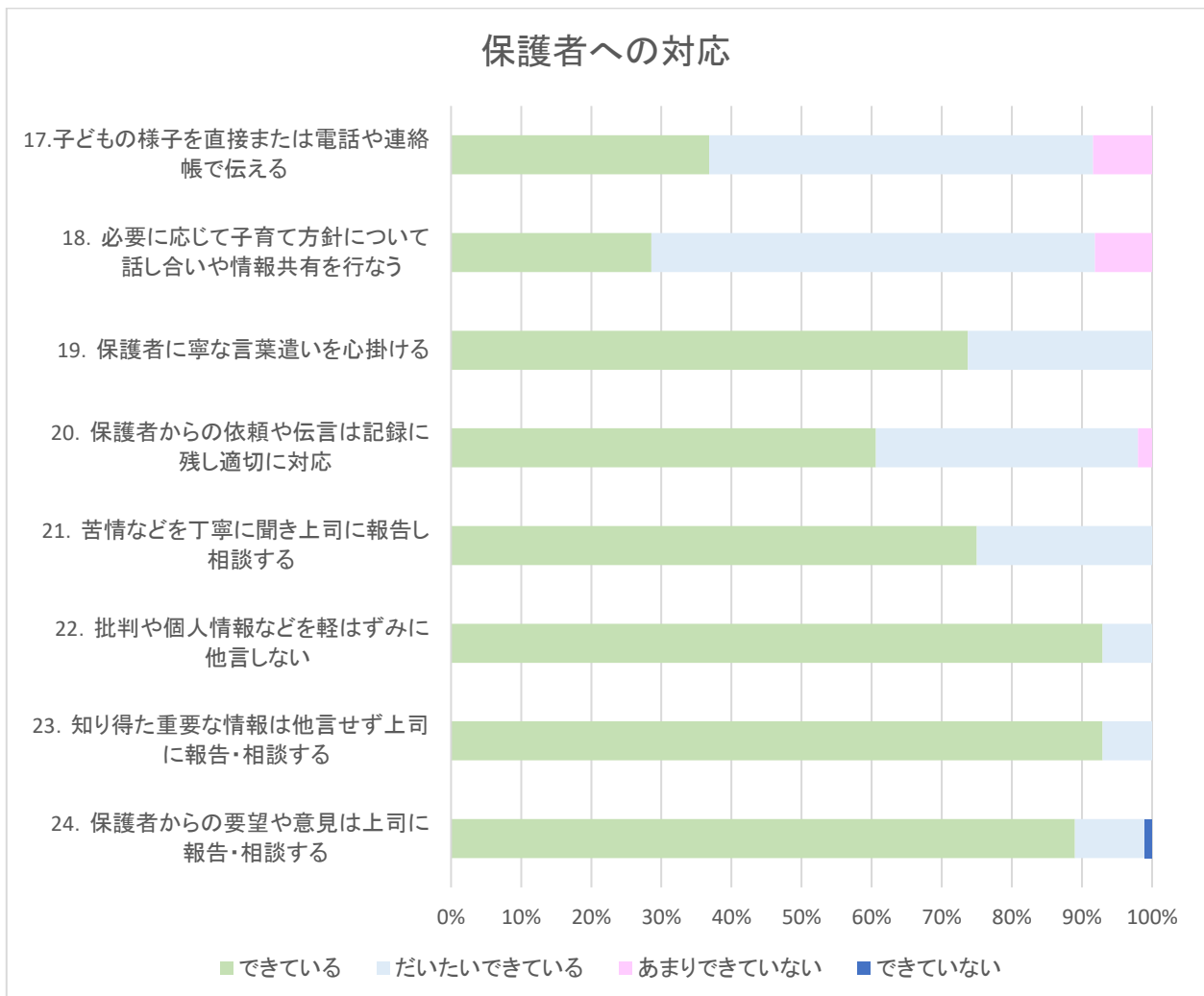
1	園の教育理念や教育方針を理解している。	A
2	園の教育方針に共感している。	A
3	指導計画に基づいて、子どもが主体的に関わりたくなるような環境構成をしている。	B
4	子どもが安全で心地よく過ごすことができる環境を心がけている。	A

II 子どもへの対応について



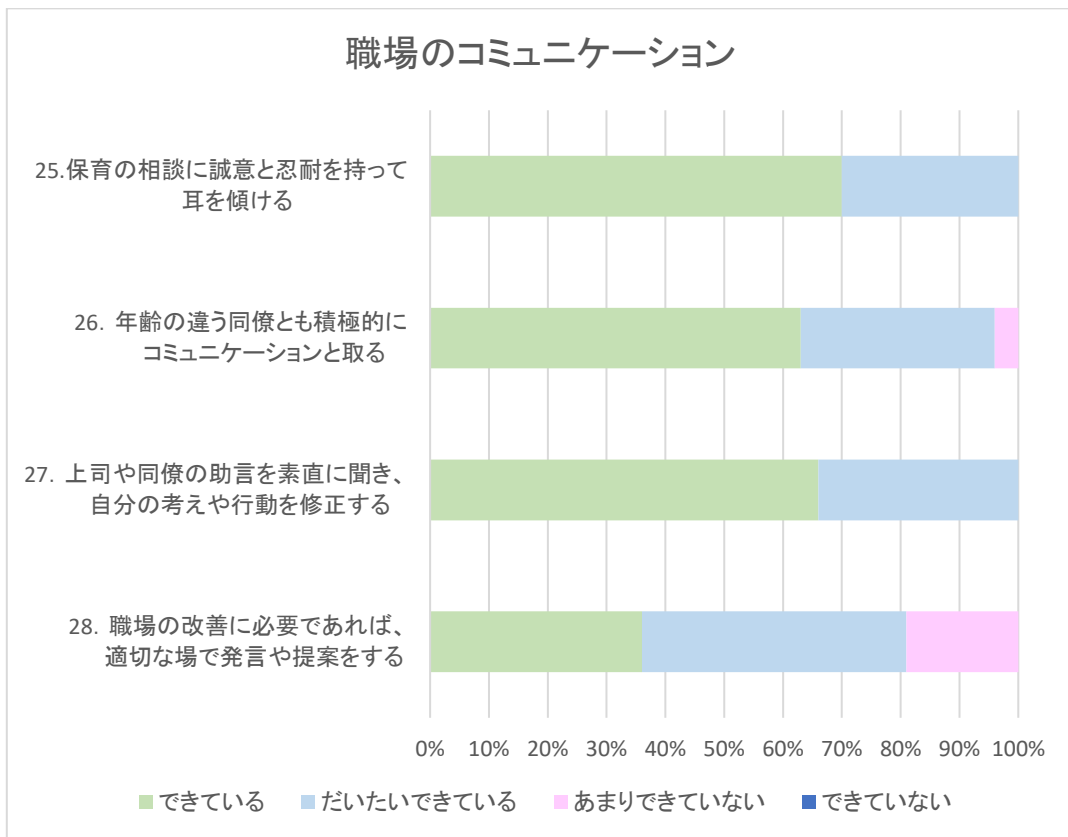
5	登園時、子ども一人ひとりの健康状態について確認している。	A
6	子ども一人ひとりの発育や発達の状態について理解している。	B
7	子ども一人ひとりの家庭環境や成育歴などを理解している。	B
8	子どもの話によく耳を傾けるようにしている。	A
9	それぞれの子どものありのままの姿を受け入れ、認めるようにしている。	A
10	禁止、命令、せかす言葉や子どもの自信を失わせるような言葉や態度にならないように心掛けている。	A
11	子どもをほめたり、励ましたり、子ども自身が目当てを持てるような言葉掛けを心掛けている。	A
12	子どもとの温かなやり取りや適度なスキンシップを心掛けている。	A
13	子どもが遊びを深めていけるようヒントやアイディアを提供している。	B
14	子ども同士の関係にも配慮して保育を行っている。	B
15	言葉にならないサインをも見逃さず、子どもの基本的欲求が満たされるようにできる限り配慮している。	B
16	保育者自身が保育の中で神様への感謝の気持ちを持ち、それをことばや態度で表現するよう心掛けている。	B

Ⅲ保護者への対応について



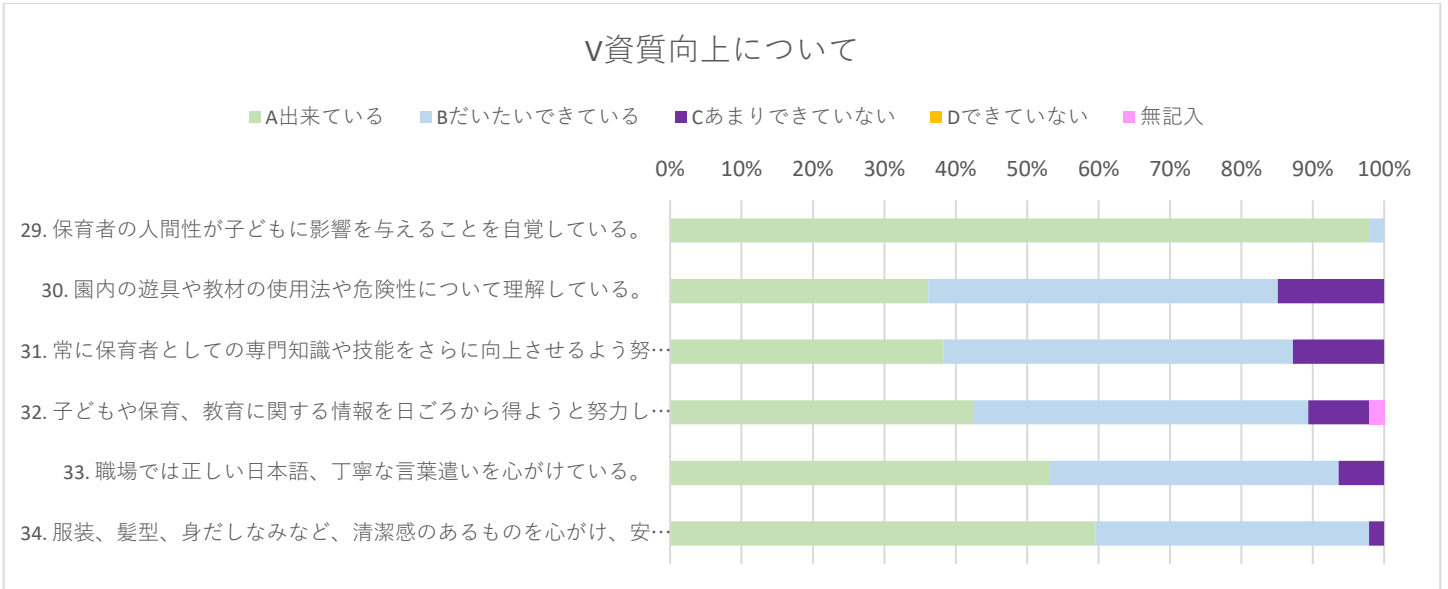
17	子どもの様子について保護者と直接話したり、電話や連絡帳などを使ったりして伝えている。	B
18	必要に応じて、各家庭の子育て方針を話し合ったり様々な情報の共有に努めている。	B
19	丁寧な言葉使いを心がけ、友だち同士のような態度で接していない。	A
20	保護者からの依頼や伝言については、記録を残し適切に対応している。	A
21	保護者から苦情等があった場合は、よく話を聞いた上で上司に報告、相談している。	A
22	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、他の園児や家庭の個人情報を他言したりしていない。	A
23	家庭環境や問題について知り得た重要な情報は、むやみに他言せず上司に報告している。	A
24	保護者からの要望や意見等について、安易に引き受けたり断ったり無視したりせず、上司に報告、相談している。	A

IV職場のコミュニケーションについて



25	同僚から保育について相談を受けたとき、誠意と忍耐をもって耳を傾けるよう心がけている。	A
26	同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的にコミュニケーションをとるよう心がけている。	A
27	上司や同僚の助言を素直に聞き、自分の考えや行動を修正することができる。	A
28	職場環境の改善に必要と思うことがあれば、適切な場で発言や提案をしている。	B

V 資質向上について



29	保育者の人間性が子どもに影響を与えることを自覚している。	A
30	園内の遊具や教材の使用法や危険性について理解している。	B
31	常に保育者としての専門知識や技能をさらに向上させるよう努めている。	B
32	子どもや保育、教育に関する情報を日ごろから得ようと努力している。	B
33	職場では正しい日本語、丁寧な言葉遣いを心がけている。	A
34	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている。	A

◎ 評価項目の達成状況と今後の課題

I 保育の計画について

達成している。

今後も教育理念について、教職員間の共通理解を図り、安心安全で子ども主体の保育を実践していく。
環境構成について、子どもたちの姿から適切な（必要な）環境を教職員で検討し、実現していく。

II 子どもへの対応について

概ね、達成している。

神さまの愛の中で、子どものありのままの姿を受け入れ尊重していく保育を実践している。
これからも一人ひとりの良さが引き出される保育を展開していく。
子どもの背後にある家庭環境にも目を向け、それに配慮した関わりをしていく。

III 保護者への対応について

達成している。

保護者からの相談や要望があった場合、上司に報告し同僚と相談した上で対応している。
今後も出来る限り、各家庭の子育て方針を把握して、教職員間で密に連携を取っていく。

IV 職場のコミュニケーションについて

達成している。

職場のコミュニケーションは良好である。
これからも保育の質の向上のために共通理解や連携を密にして保育に取り組んでいく。

V 資質向上について

概ね、達成している。

保育者として子どもたちにとっての環境の一部であることを意識して行動や言動などを整えている。
今後も、遊具や教材研究、教育・保育情報の取得に努めていく。

4. 本年度の重点事業の評価

① 園内外で研究、研修を行い、保育の質の向上につなげる

- 乳児・幼児クラス各々に外部講師をお願いして、園内研修を実施することができました。
幼児クラスは昨年度からのエリクソンと新たにドウルーズの保育理論を加えて、保育実践に理論を重ね合わせて研修をしました。
乳児クラスは、実践から乳児保育の理論と照らし合わせて、本園の保育の中で大切にすべきは何かを研修しました。
本園の保育の骨子となる0～6歳までのを見通してカリキュラムの作成に取り組みました。
- 保育学会はリモートによる発表となり、経験したことのない学会となりました。
ポスター発表をするために先生たちは学びを深め、語り合いをしてきましたが、質問や示唆などがチャットでしたのでタイムラグがあり物足りなさを感じました。本園は、『子どもの生活の中の「、」』というテーマでポスター発表を行いました。
- 学年ごとに先生たちが異年齢保育に関する研修を行いました。

② 自然、木育を取り込んだ教育の推進

- 室内外の自然環境は少しずつ充実してきました。子どもたちがじっくりと落ち着いて、観察したり調べたりする姿が見られました。
ピオトープにカエルの卵が産み付けられていることに興味を持った子たちが集まって、図鑑を調べて日々観察をする姿がありました。
- 先生たちが講座に参加し木育インストラクターや保育ナチュラルリストの資格を習得しました。
自ら興味を持って自然や木育に取り組む姿がみられました。子どもたちの遊びの中にも取り入れて、園庭やグリーンスペースで楽しんでいました。

③ 主体性と創造性が育まれる園庭と室内環境の構築

- 外アトリエができたことにより、子どもたちの活動がより豊かになり自然を取り込んだ活動や自然を感じることができました。子どもたちが主体的に環境に関わっていきたくなるように工夫をし、子どもたちの主体性や創造性が豊かになっていきました。
- 新型コロナ感染の状況により、今年度も外部の園に見学研修に行くことはできませんでした。
お父さんの会の活動も3時間ほどにして、長時間実施しないように気を付けました。
環境づくりに関する冊子などを用いて、お父さんの会などでも話題にしました。

5. 本年度 研究・実践発表

- ・第74回保育学会で研究発表
『子どもと共に暮らすとは・・・～生活の中の「、（点）」～』というテーマでポスター発表
- ・幼児造形教育研究会 オンライン実践発表

6. 本年度 本園の保育実践が掲載された書籍

- ・研究誌「美育文化ポケット」、月刊誌「保育とカリキュラム」「PriPri」に掲載（本園の保育実践）
- ・学研「ほいくあっぷ」に掲載